
とある転生者の崩壊道

Sankusu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある転生者の崩壊道

【Nコード】

N7497Z

【作者名】

Sankusu

【あらすじ】

気がつくときと真つ白な空間、そして神と名乗る奇妙な人間？そうか、これが転生ってやつか。とあるシリーズに転生した一人の少年、楠木和真。彼が関わっていくことで少しずつ物語が変わっていく。渦巻く陰謀、落ちる涙。果たして、和真は自分の大切なものを守るのか！・・・といったことはなく、だらけた生活を書いていく予定です。ちなみに主人公チートです。これが処女作なので、暖かく見守っていただけるとうれしいです。アドバイスなどをくれたらもっとうれしいです。

転生！？（前書き）

初めてで、拙文ですがどうぞ。

転生！？

目が覚めると、真っ白な空間だった。

「・・・どこだよ此処は？」　そう思っていると、

「此処は天界みたいなところじゃ。」

「うわっっ！？」

後ろからいきなり声をかけられたので、思わず身構えてしまった。

「なんじゃ、意外とびびりなのか？」

「・・・誰だよあんた。」

「わっちは世間で言う神というやつじゃ。」

「・・・神？それにわっち？」

「そっちは気にするな。ただのくせじゃ。それより、お主今の状況が解るか？」

「まったく何も解らん。」

「やはりか・・・まあ簡単に言うとお主は死んだのじゃ。」

「……は？」

「いきなり言われても理解できんか。まあなんで死んだのかと言つと、」

「こちらのミスでお主を死んだことにしてしまったんじゃないよ。」

「……もつと訳が解らん。死んだことにしたって何だよ。」

「お主此処に来る直前、何をしていたか覚えてるかの？」

「確か昼飯を食っていたはずだが、それが？」

「うむ。その昼飯に食っていたパンを誤つてのどに詰まらせたことにしてしまったの。」

「それでお主は死んで、今に至る。」

「……パンをのどに詰まらせるってあんま聞いたことねえぞ。まっ、とりあえず俺は死んだわけね。」

「なんかあつさりしてるのお。まあいい。とりあえず死なせてしまったお詫びとして、」

「違う世界に転生させてやろう！」

「何でそんなにテンション高いんだよ……。」

「さあさあ、どこにするんだい！！」

「それにしても、まさか転生が俺におこるとはなあ。まあ嘆いてもしゃあないか。」

となると、原作知識をある程度知っているほうが何かと便利だよね。

「それなら、とあるシリーズの世界で。」

「ほうほう、とあるシリーズか！いいのお！
ちなみにわっちは神裂ねーちんが好きじゃー！！」

「んなこと誰も聞いちゃいねーよ。」

「それで、どんな能力が欲しいかの？」

「は？能力？」

「あんな世界に行くんじゃ。あつたほうが安心じゃろ。」

言われてみればそうか。となるとどんな能力がいいんだ？
うーん、原作はあまり壊したくないからな。

表向きは普通能力であとはチートにしてみらうか。

「なら、白井黒子ぐらいの瞬間移動で。それを普段の能力としてふるまう。」

あとは、ナルトの永遠の万華鏡写輪眼、もちろん普通の写輪眼もな。

それと忍術全般、学園都市に存在するすべての能力、
あとはワンピースの覇気全部かな。」

「……意外と欲張りじゃの。」

はっ！第二の人生なんだ。これぐらいあってもいいだろう！

……自分で少し多いなとも思っているが。

「まあ死なせてしまったから、それぐらいならいいんじゃないの。」

あとは、年齢と性別じゃがどうする？」

そうか、年齢とかがあったか。年齢は上条さん達と関わるなら同じ年がいいか。

そっちの方が動きやすいだろう。性別は変えるつもりはない。

「なら、年齢は16歳、性別は男で。」

「年齢は16、性別は男じゃな。よし、登録できたぞ！」

……登録って何だよ。それはさておき、学園都市か。ヤベえ、なんかテンションがあがってきた！

「それじゃあ、学園都市に飛ばすぞ、よいな？」

「おう！ドンと来い！」

こうして、一人の転生者が物語りに介入していく。

「ちなみにわっちもどこかで出てくるぞ。」

「何でだよー!!」

大丈夫か、この先の俺の人生。

転生！？（後書き）

タイトルのあれはブレイクロードと読みます。ちなみに、和真の能力とはあまり関係ありません。気が変わったら関係してくるかもしれません。

いきなりの統括理事長（前書き）

どうも、シャunksです。相変わらずの拙文ですが、よかったらどうぞ。

いきなりの統括理事長

ここは、230万人の人が住む学園都市。その学園都市の第7学区に和真はいた

（とりあえず学園都市に来たんだ、散歩でもすつかな。）

そう思って歩き出そうとしたら、ポケットに何かが入っているの
に気がついた。

「何だこれ？」

ポケットを見ると、入っていたのは小さなメモ用紙だった。見ると、神からの伝言だった。

t
O
和真

これを見ているということは、無事転生できたみたいじゃの。
色々あると思うが、がんばって生きていくんじゃない。それとお
主の力じゃが、

言われたやつのほかにもうひとつオリジナルの能力をつけておいた。

自分で確かめておけ。

それからこの世界でのお主の家はないからがんばって見つけるんじゃない、ほっほっほっ！

「・・・あの野郎、今度会ったらしばいてやる。それと、オリジナル能力だと？」

どんな能力だ？あとで確かめてみるか。それより・・・

「家探しとか、人生初だぞ・・・」

新しい世界で初めてやるのが家探しとか・・・テンションだだ下がりでよ。

「っーか、どうやって探しゃいいんだよ。

うゝん、てっとり早いのは統括理事長に会うことだよな。」

でも大丈夫か？いきなり会って。最悪殺されるかもしれん。それだけは避けたい。

この世界では早死にするつもりはないぞ。

・・・もとの世界でも死ぬつもりはなかったけど。

「・・・まあ、殺されることはないだろう。

よし！なら思い立ったら吉日ってやつだな。早速いつてみる

か。
」

第7学区のとある窓もドアもないビルの中、アレイスター・クロウリーは、

目の前に出ているモニターを見ていた。

そこには、ビルの屋上に突如姿を現した一人の少年が映っていた。

「……………」

すると、その少年が今度は自分の目の前に姿を現した。

「ハロハロー！」

「……………誰だ。」

「おいおい、人のことを聞く前にまず自分の紹介だろ。
なあ、魔術師アレイスター・クロウリーさん？」

「……………すでに私のことを知っている者に自己紹介をしてなんになる。」

「ははっ！それもそうだな。」

「で、君は誰だ」

「俺は楠木和真。出身地、その他もろもろは答えられない。」

「楠木和真……。それで、目的は何だ。」

「目的か……。まあまずは家だな。」

「家……。？」

「ああ。実は学園都市に今さっき来たばかりだな。

しばらくここにいるつもりだから住むところが欲しい、できれば第7学区内で。」

「そうか。それで本当の目的は？」

「今言ったこと無視かよ……。」

「この映像に映っているのは君だろう？」

映像だけでも君が普通じゃないのがわかる。

そんな人間に家をやるなんておかしいだろう。」

「今度は変人扱いかよ・・・まあ家が真の目的ではねえけど。」

「なら何だ。」

「まずはここに住むこと。それからことは何も考えていない。
・・・どうしたらいい？」

「私に聞くな。・・・ふう、まあいいだろう。」

だが、君がここに住んで私になんのメリットがある？」

「ああ・・・なんだろうな。とりあえずは暗部の仕事を引き受けたりしよう。」

「それは君にデメリットしかないんじゃないのか？」

「確かに。俺も死ぬつもりはない。だが、何も無いのもつまらない。」

俺は刺激がある人生を楽しみたいからな。」

「なるほどな・・・まあいいだろう。」

それで、最初は家だったかな・・・そうだな。

では、ここから南西に見えるあのマンションの20階から27階をやるう。

ちなみに各階の部屋数は10部屋だ。」

「・・・あんた馬鹿か？どこに一人で80部屋使う奴がいんだよ。」

「全部使わなくてもいい。あそこは空き部屋が多くてな、処理に困っていた。」

家賃は払わなくもかまわない。」

「・・・結局いらねえもんを押し付けられただけじゃねえかよ。
・・・まあ、それだけいい家を貰えたからありがたいけどな。」

「次に暗部のことだが、こちらから君の携帯に連絡する。
それ以外の時間は自由にしてもらっても構わない。」

「分かった。それと俺の学校とレベルは？」

「学校は海星学園、学園都市でも5本の指に入る学校だ。レベルは、表向きはレベル4の瞬間移動にしよう。レベル5と公表して変な騒ぎでも起こしたら面倒だからな。暗部では、コードネーム「デビル」、つまり学園都市第零位として働いてもらう。」

「（第零位？デビル？そんなもんあったっけか？）分かった。」

「なら今日はもう帰っていい。家の鍵はそこにおいてある。」

「ああ。サンキューな」 和真は瞬間移動を使って外に出た。

（・・・楠木和真か。面白い存在が出てきたな。）

そしてビルを出た和真は、あてがわれたマンションに向かっていた。

（ふう・・・死ぬかと思った。）

何だあの威圧感、完璧に殺すつもりだったんじゃないか？

まあ話がまとまってよかった。・・・割りとガチでよかった
と
思
っ
て
る。

まあこれで最低限生きていけるようにはなった。

さて、これからどうやって原作に関わっていくかな。
（

いきなりの統括理事長（後書き）

結局、タイトルのあれを能力にすることにしました。どついう能力にしようか悩んでいます。多分、次は人物設定なのでそこで発表したいと思います。

新しい家と人物設定（前書き）

予定していた通り、人物設定になりました。ただ、和真のオリジナリティが訳のわからないものになってしまいました。すいません。

新しい家と人物設定

第7学区のとあるマンションの2705室、和真は呆れていた。

「何だこりゃ・・・」

そこは、だだっ広いリビングに洋室が7部屋、さらにはテレビが4つもあるという

どこかの社長さんが住むような部屋だった。

「アレイスターの野郎、これはもはやいじめのレベルだろ・・・しかもこれがあと79部屋もあるし。」

全部がこの部屋と同じだとは思わないが、それでもなあ。」

ベランダに出てみると、どういう構造をしているのかなぜかプールがあった。

「はあ・・・とりあえずこれは置いといて、俺の能力だな。」

ここに来る前、少し能力を試して見たが、何だこの能力は。

能力名は崩壊道ブレイクロードだったかな。

その能力は自分がこれまで歩んできた道とこれから歩んでいく道、つまり過去と未来を塗り替えて現在に変化をもたらし能力らしい。

・・・自分で言っても訳がわからん。あれか、

例えば俺は能力が使えないという過去を能力が使えるという過去に塗り替えれば

俺は能力が使えるみたいなことか？あまり理解できないが、まあいい。

だが未来を変えるってなんだよ、某ネコ型ロボット漫画かよ。未来変えてどうしろってんだ。

・・・というよりこんな能力なら神から色々もらった能力無駄じゃねえかよ。

「この環境でこれから生活していくのかよ。不幸だ・・・。」

人物設定

名前：楠木和真

性別：男

容姿・性格：世間で言うイケメン。ジャニーズみたいなイケメンではなく、

エグザイルみたいなイケメン。髪は、ナルトのうちはサスケみたいな髪型で、

色は少し茶色がかった黒。何事にもやる気がまったく無く、他人に興味が無い。

だが、自分に有益になること、面白いと思ったことには誰に

も負けない

テンションの高さを見せる。命をむやみやたらと奪うことはないが、

信念が腐っている者（と言う建前で実際は自分が気に入らないやつ）は

ためらいもなく惨殺する。好きな物はイチゴ牛乳と他人の不幸。

嫌いな物は食べ物だとトマトとチーズ、人間だとうるさい奴と自分自身を

否定する奴。

もとの世界のと看から喧嘩は強く、能力の発生に伴い身体能力は聖人を

凌駕するものになった。弱点は左脇腹（もとの世界での傷が残っているため）。

能力：崩壊道
ブレイクロード

自分がこれまで歩んできた道、これから歩いていく道（過去と未来）を塗り替えて

現在に变化をもたらす能力。この能力は他者に使うことも可能で、

例えば相手の未来をあと5秒後に死ぬというものに変えれば、その相手は

5秒後に死ぬことになる。遺体が完全な状態であれば生き返らせることも可能。

新しい家と人物設定（後書き）

本当に訳がわかりませんね、この能力。自分で読んでも、はあ？
と思いました。こんな能力を持つちゃって、この先どうすればいい
でしょう。

邂逅（前書き）

ところどころ変な部分があるかもしれません。あと、今回は能力は出てきません。

邂逅

「何ででこうなった……。」和真は、嘆きながらある場所へと向かっていた。

今から10分程前……

ピリリリ……。 「ん？アレイスターか？」和真は携帯に出ている

番号を確認し、電話に出る。

「もしもし、もう仕事のオーダーかよ。人使いが荒いねえ。」

『今回は違う。いや、捉え方によっては仕事かもな。』

「はあ？」

『実は、君を風紀委員にしておいた。』

「……は？」

『いやなに、最近この学区の治安が少し荒れてきていてな。人手が足りなかったんだ。』

「いや、だからって何で俺？」

『それじゃ頼んだぞ。ちなみに一七七支部だ。』

「勝手に話を進めるな!!」

.....

「はあ。俺あいつになんかしたか？完璧に嫌がらせだろ。
マンションのことといい・・・。」

この世界に来てから疲労しか溜まってない気がする。はあ、
癒しが欲しい。

（しかも一七七支部って御坂たちがよく居る場所だろ。まだ関
わりたく

なかったんだけど。だがアレイスターの言うこと聞かねえと
何をされるか「離してください!!」・・・今の声聞いたこと
があるような・・・。）

辺りを見回すと、路地裏で複数の男共が一人の少女を取り囲
んでいた。

（・・・昼間っから何やってんだあの男共。

面倒事増やすんじゃないえ・・・って、あの囲まれてる奴って
まさか・・・。）

少女はどうすればいいか、分からなくなっていた。

「お嬢ちゃん可愛いねえ、その頭の花飾りも。俺たちがもっと可愛いもの

買ってあげるから一緒に遊びに行こうよ。」

（どうしよう。こんなときに限って腕章落としちゃうし・・・。

）

「ねえいいじゃん。お金なら俺たちが「おい。」・・・ああ？」

頭に花飾りをしている少女、初春飾利は、

一人の少年がこちらに近づいてくるのが見えた。

「なんだてめえは？殺されてえのか。」

「予想通りの言葉をありがとう。だが予想通りすぎてつまらねえな。」

「何だこの野郎！！」

「つつ！逃げてください！！」

初春の叫びもむなしく、男はすでに少年の前で殴りかかっていた。しかし・・・

「がつ!!」

倒れたのは少年ではなく、殴りかかった男の方だった。

「へ・・・？」

初春は驚いた。いや、初春だけではない。その場に居る全員が驚いた。

何もしていないのに、少年に殴りかかった男が倒れ、しかも気絶しているのだ。

「なっ！てめえ、何をした!!」

「何をしたって・・・ただ殴っただけだよ。つーか一発殴っただけで気絶するとか、

もうちょっと身体鍛えろよ。」

初春はさらに驚いた。あの少年はただ殴っただけだと言っている。だが、初春はその殴った動作がまったく見えなかったのだ。

「さて、一人は潰した。あとは何人かなあ？」

「ひい!!」

およそ30秒後、通報を受けたツインテールの風紀委員、白井黒子は

現場に到着した。

「ジャッジメントですよ！おとなしく・・・って、被害者は初春でしたの？」

「白井さん！すいません、腕章を落としてしまって、それで・・・」

「そうでしたの。まあ怪我がなくてよかったですわ。

・・・ん？怪我がない？初春、暴漢達は？」

「それが、あの人が全部倒してしまって・・・」

「あの人？」

白井は、初春が向いている方向を見た。するとそこには、倒れた複数の男と

一人の少年が立っていた。初春が言っていたあの人とは、あの少年の事だろう。

すると、少年はこちらに気づいたのか、近づいてきた。

「風紀委員か？」

「え、ええ。風紀委員第一七七支部の白井黒子と申します。同僚を助けていただきありがとうございました。」

「いえいえ。あっそうだ、これお前のじゃねえのか？」

そう言うと、少年は初春に腕章を見せた。

「あっそうです！ありがとうございます！それにしても、
何で私のだと分かったんですか？」

「拾ったらあまり汚れてなかったんだよ。ということは
落としてからまだ時間はそれほど経っていない。持ち主はこ
の近くに居るはず。」

だが回りを見てもお前と男共以外誰も居ないから、その内の
誰かになる。

かといって、あの男共の誰かが風紀委員とも思えねえし。だ
としたら

残っているのはお前だけってわけだよ。」

「おおー！すごいですね！」

「あの、助けていただいたところ申し訳ないのですが、
事情聴取をさせていただきたいので一緒に支部まで来てもら
えませんか？」

「ああ、いいぞ。俺もちょうど行くところだったしな。」

ジャッジメント

風紀委員一七七支部内

「ということは、報告に受けていた移動して来る人とはあなた

のことでしたの?」

「ああ。楠木和真だ、宜しくな。」

「先ほど言った通り、白井黒子ですの。こちらは同じ支部の初春飾利ですの。」

「初春飾利です。先ほどは助けいただきありがとうございます。」

「それで、あの暴漢者たちをどうやって倒したんですの?」

「どうやってって・・普通に殴っただけだけど。」

「ですが、初春はあなたが殴ったところを見ていないそうなんですの。」

「そうなのか? うーん、本当にただ殴っただけなんだが・・・(こつちに来て身体能力上がったのか? 殴ったとこすら見えないってどんだけだよ。)」

「そうなんですの? まあいいですわ。あなたのことはこれから知っていくでしょうし。」

それより、今はあなたには始末書を書いてもらいますわ。」

「・・・は?」

「いくら助けたといっても、あなたは今支部を移動している最中。」

どこの支部にも属さない人は風紀委員とは言いませんの。

それ以前に、あれはやりすぎですの。」

「……マジ？」

「マジですの。」

こうして、風紀委員としての生活が始まった。

「不幸だ……。」

邂逅（後書き）

・・・黒子のしゃべり方ってこんなでしたっけ？なんだかよく分からなくなってきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7497z/>

とある転生者の崩壊道

2011年12月26日20時46分発行